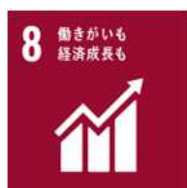


2. SDGs 目標別ポイント解説



目標8:働きがいも経済成長も

(1) 人間らしい働き方 ～ディーセント・ワークの実現～

世界には、働きたいと思っているのに仕事がない失業者が約 1.9 億人いるといわれています。さらに、仕事があっても 5 人に 1 人は十分な収入を得ることができず、貧困から抜け出す事ができずにいます。労働時間や労働条件が厳しい環境で働かなくてはいけない人も少なくありません。

働きがいがあり、十分な収入が得られる仕事をディーセント・ワークといいます。貧富の格差が拡大しているといわれる今、地球のみんなが幸せに暮らすためには、ディーセント・ワークをいかに実現できるのかを考えていかななくてはなりません。

また、これからの時代は、大量生産・大量消費を卒業し、経済の発展と環境を守ることの両立が大切です。持続可能な経済成長の仕組みづくりは、SDGs の大きな目標です。

(2) 学校に行けずに働く児童労働の実態

日本では、ほとんどの子どもが義務教育の小学校、中学校を卒業後も高校に進学しています。大学・短大進学率も 60% 近くに達するなど、世界でも有数の高学歴社会です。

しかし、世界では学校で勉強したくても、いろいろな理由から働かなくてはいけない子どもたちがたくさんいます。5～17 歳の働く子どもの数は約 1 億 5,200 万人いるといわれており、世界の子どもの 10 人に 1 人が学校で教育を受けることなく働いています。

児童労働をする子どもは、安い賃金で、働く条件も悪い環境にいることがほとんどです。教育を受けないまま大人になることで貧しさから抜け出せない、病気やケガをしても治療を受けられない、正規の仕事につけないので不安定な仕事をせざるを得ず、結果、犯罪に走りやすいなど、様々な問題にもつながります。

また、児童労働は「生活のために働かなくてはならない」という理由のほかに、「学校に行く意味がない」「女子は教育を受ける必要がない」という親や周囲の考え、国や地域によっては宗教上の理由で一定以上の教育を受けることを禁止することもあります。

(3) 世界の若者や発展途上国の失業率

世界では若い世代の失業率が問題となっています。2019 年の若者の失業率は約 13.6% にのぼり、働くことをあきらめて「ニート」となる若者も増えています。仕事に就いて、

安定した収入を得るチャンスが減ることは、若者が未来への希望を失い、社会に不満を持つことにつながります。地球の未来をつくる若者が、満足できる働き方ができることは、持続可能な社会づくりにおいてとても大切なことです。

(4) わたしたちにできることを考えよう

わたしたちが暮らす日本の働き方を、今一度見直す時期です。ワークライフバランスといった、仕事とプライベートをともに充実させる生活スタイルの確立へは、まだまだ途上といえるでしょう。

また、長時間労働やメンタル不全により体調を崩すといった労働問題に関する報道は、後を絶ちません。一方、AI やロボットが導入され、テクノロジーが進歩することで、働き方も、徐々に多様性の時代になりつつあります。

日本は、「長時間働くことが良いこと」というムードが根強く、その結果、低収入で長時間働かなくてはならない環境がなくなり、結果、働き過ぎによる「過労死」が、社会の大きな問題となっています。

そこで、国をあげて取り組んでいるのが働き方を見直そうという「働き方改革」です。仕事とプライベートの両方が充実した、バランスのよい人生を送るには、どんな働き方がいいのか、友人や家族や同僚など、身近な方と話す機会を持ち、関心を寄せること、そして、意見できる場において、その想いを伝えることも大切です。

<執筆者> 株式会社吉岡経営センター

コンサルティング部 課長 町田 一也

<プロフィール> 主に、福祉施設、介護事業所に対する人事制度の提案や研修企画、講師などを行う。